

川越町の子どもたちの学力向上に向けて

～全国学力・学習状況調査の結果報告～ その1

令和4年 9月
川越町教育委員会

本年5月、小学校6年生及び中学校3年生を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」の結果概要をお伝えします。川越町教育委員会では、結果からわかる、子どもたちの「強み」「弱み」等の傾向をとらえ、具体的な施策に反映していきます。つきましては、保護者の皆様には、家庭生活や生活習慣の見直しに向けてご協力をお願いいたします。

なお、この調査は学力の特定の一部分を測るものであり、学力のすべてを測るものではないことをご理解ください。



1. 学力・学習状況調査結果

(1) 川越町小学校

□全体の傾向・・・正答率が中位よりやや低い児童が多い。

国語：正答率中位よりやや低い児童が多くみられる。

算数：正答率の低い児童は少ないが、中位よりやや低い児童が多くみられる。

理科：正答率の低い児童が少なく、全体的に正答率が高い。

	強みと弱み (強み・・・「◎」 弱み・・・「◇」)
国語	<p>◎話し言葉と書き言葉との違いが理解できている。</p> <p>◎漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書くことの大切さが理解できている。</p> <p>◎全体的に無回答率が低い。</p> <p>◇必要なことを質問し、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉える力に課題がある。</p> <p>◇登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉える力に課題がある。</p> <p>◇表現の効果を考える力に課題がある。</p>

算数	<p>◎示された場面を解釈し、除法で求めることができる理由を記述できる児童が多い。</p> <p>◎正三角形の意味や性質を基に、回転の大きさとしての角の大きさに着目し、正三角形の構成の仕方について考察し、記述できる児童が多い。</p> <p>◎図形を構成する要素に着目して、長方形の意味や性質、構成の仕方について理解ができている。</p> <p>◇二つの数の最小公倍数を求める力に課題がある。</p> <p>◇加法と乗法の混合した値の求め方を解釈し、ほかの場合の値の求め方と答えを記述する力に課題がある。</p> <p>◇数量が変わっても割合は変わらないことを理解できていない児童が多い。</p>
理科	<p>◎実験器具の名称を理解している児童が多い。</p> <p>◎問題に対するまとめから、その根拠を実験の結果を基にして書くことができる児童が多い。</p> <p>◎実験結果の表を基にしたまとめを読んで、その理由を書くことができる児童が多い。</p> <p>◇実験の方法を検討して、改善し、自分の考えをもつ力に課題がある。</p> <p>◇水は水蒸気になって空気中に含まれていることを理解できていない児童がいる。</p> <p>◇観察などで得た結果を、他者の気付きも踏まえて分析し、自分の考えをもつ力に課題がある。</p>

(2) 川越町中学校

□全体の傾向・・・正答率が低い生徒が少なく、中位よりやや上位の生徒が多い。

国語：正答率が低い生徒は少なく、全体的に正答率が高い。

数学：正答率中位からやや上位の生徒が多い。

理科：正答率中位からやや上位の生徒が多い。

	強みと弱み (強み・・・「◎」 弱み・・・「◇」)
国語	<p>◎表現の技法について理解できている生徒の割合が高い。</p> <p>◎行書の特徴を理解できている生徒の割合が高い。</p> <p>◎話の進め方のよさを理解できている。</p> <p>◇自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書く力に課題がある。</p> <p>◇助動詞の働きについて理解し、目的に応じて使う力が少し弱い。</p> <p>◇事象や行為、心情を表す語句についての理解が少し弱い。</p>
数学	<p>◎箱ひげ図から分布の特徴を読み取ることができる生徒の割合が高い。</p> <p>◎素因数分解ができる生徒の割合が高い。</p> <p>◎問題場面における考察の対象を明確に捉えることができる。</p> <p>◇事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明する力に課題がある。</p> <p>◇結論が成り立つための前提を考え、説明する力に課題がある。</p>
理科	<p>◎物体に働く重力とつり合う力を矢印で表し、その力を説明できる生徒の割合が高い。</p> <p>◎骨格について共通性と多様性を見方を働かせながら比較し、共通点と相違点を分析して解釈できる生徒が多い。</p> <p>◎画像や観測データを天気図に関連付けて、天気の変化を分析して解釈できる生徒の割合が高い。</p> <p>◇静電気に関する知識及び技能を活用する力に課題がある。</p> <p>◇状態変化に関する知識及び技能を活用する力に課題がある。</p> <p>◇昆虫でないものと昆虫を比較して共通点と相違点を捉え、分類の観点や基準を基に分析し、根拠を記述する力に課題がある。</p>

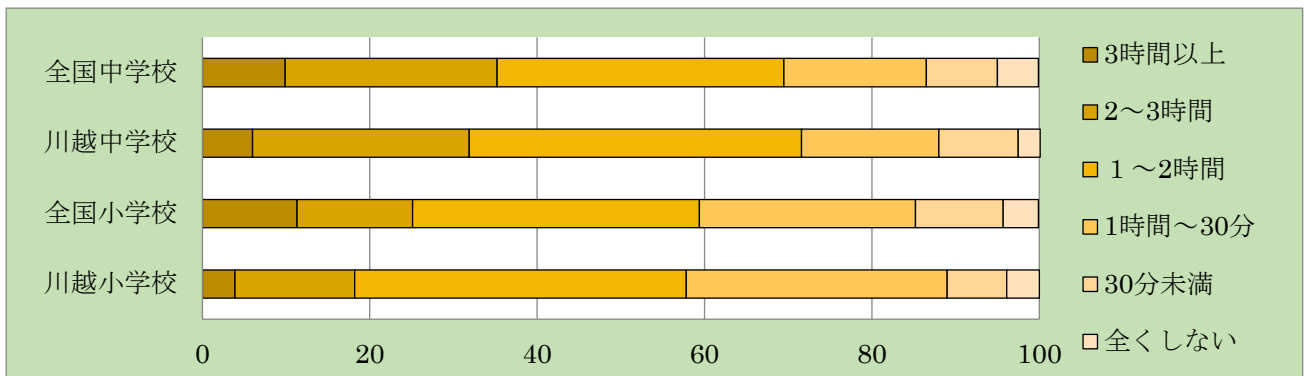
(3) 児童生徒質問紙による生活調査結果

①学習時間帯（平日）

***小学生では30分未満の子どもが全国と比べ少ないが、1時間以上家庭学習の時間を確保している子どもも、60%弱である。**

***2時間～3時間未満家庭学習している割合は小中学校共に全国の割合とほぼ同等であるが、3時間以上家庭学習している割合は全国より低い。**

Q：学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしていますか（学習塾や家庭教師、インターネットで学ぶ学習も含む）

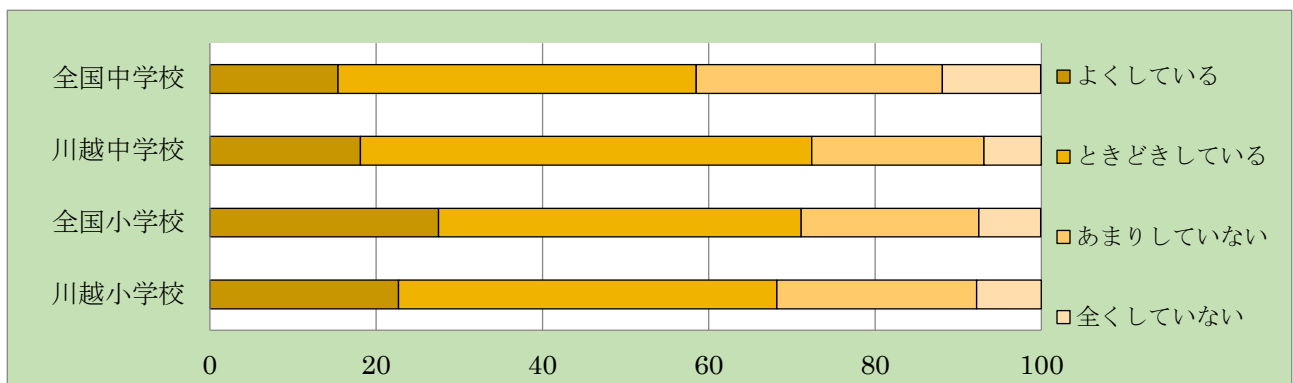


②計画的な家庭学習

***中学校のおよそ70%が自分で計画を立てて勉強しており、全国の肯定回答を上回っている。**

***小学校では、自分で計画を立てて勉強している子どもは、全国の肯定回答を下回っている。**

Q：家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。（学校の授業の予習や復習を含む）

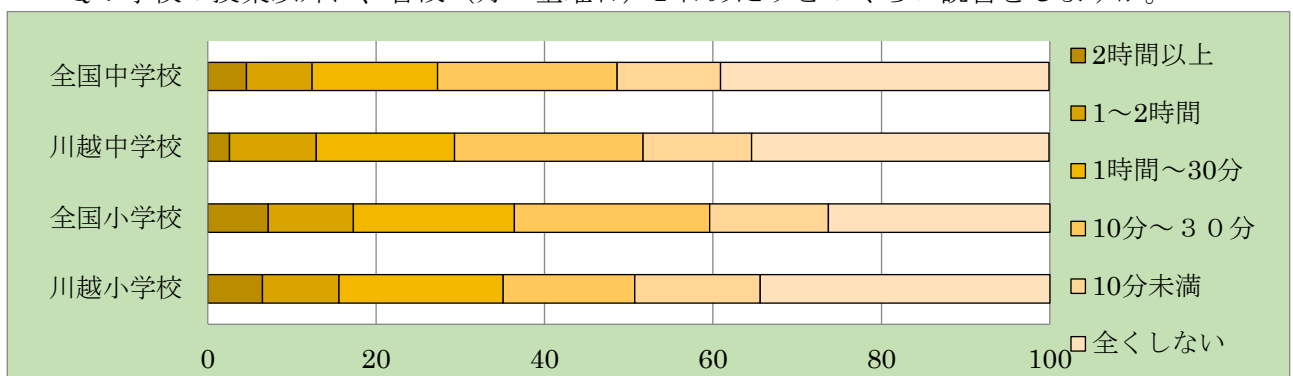


③読書習慣

***中学校では1～2時間読書をしている子どもの割合が全国と比べ高く、全く読書をしていない子どもの割合は35%程度であるが、全国と比べると少ない。**

***小学校でも、全くしていない子どもの割合は35%程度であるが全国より高くなっている。**

Q：学校の授業以外に、普段（月～金曜日）1日あたりどのくらい読書を読みますか。

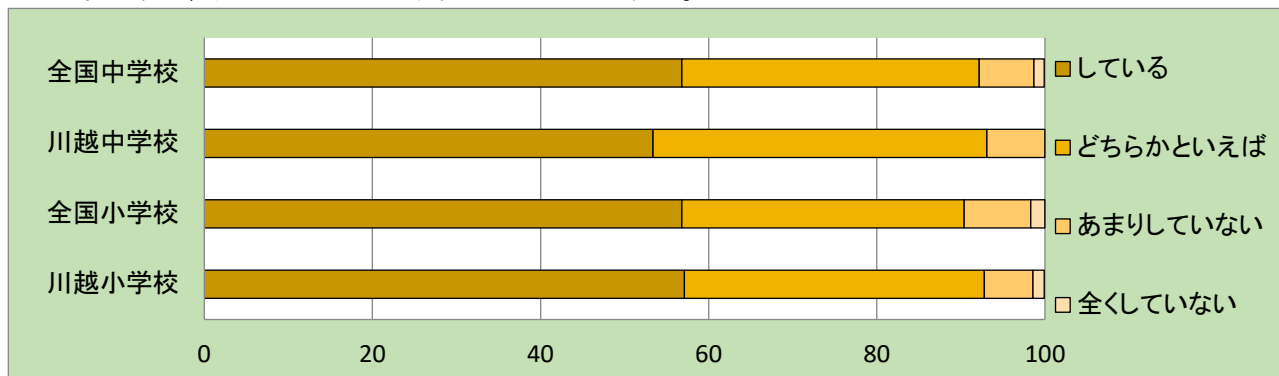


④ 基本的な生活習慣

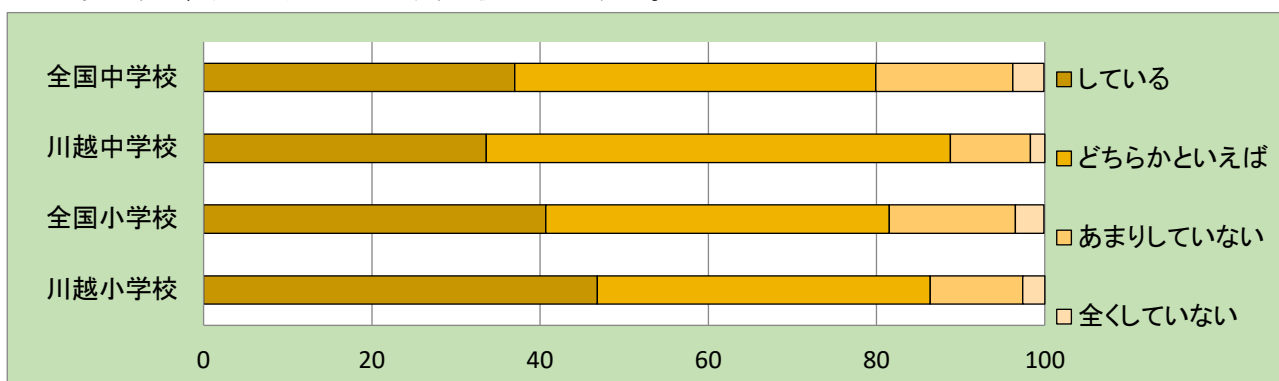
*小学生・中学生ともに、ほぼ規則正しい生活を送れているが、就寝時刻に関しては約1割が不規則である。

*毎日朝食を食べていない児童が約1割程度おり、毎日朝食を食べている小学生は全国と比べても低い。

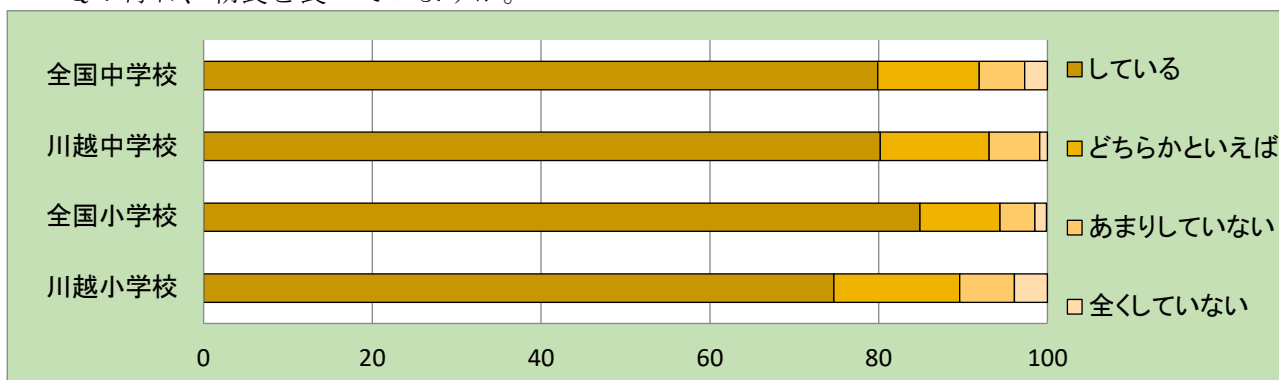
Q：毎日、同じくらいの時刻に起きていますか。



Q：毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。



Q：毎日、朝食を食べていますか。

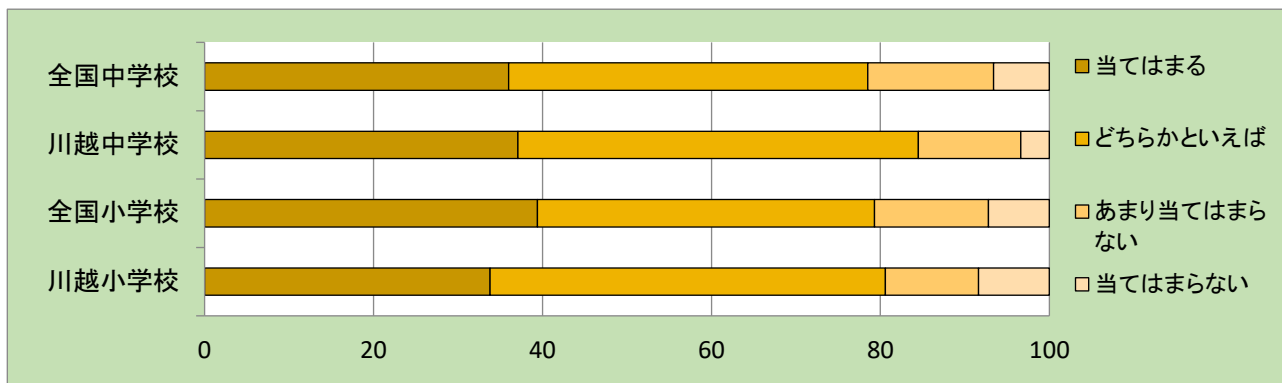


⑤自尊感情

*中学校では自尊感情が高い生徒が約8割程度となっており、全国の肯定回答を上回っている。

*小学校では、自尊感情の高い児童の割合は、全国とほぼ同じであるが、「自分には、よいところがある」と思っていない児童が2割程度いる。

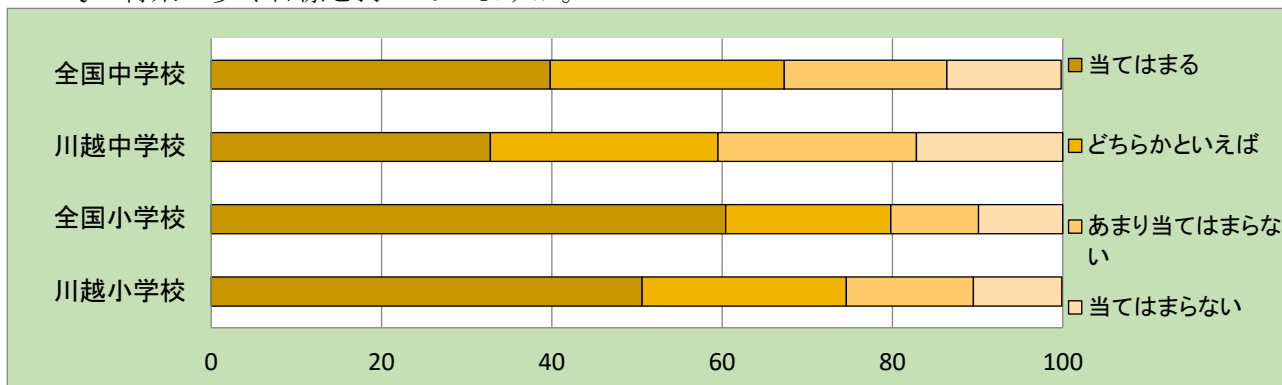
Q：自分には、よいところがあると思いますか。



⑥キャリアの形成

*将来の夢や目標を持っている子どもの割合は、全国と比べ低く、中学生においては将来の夢や目標を持っている子どもは6割程度となっている。

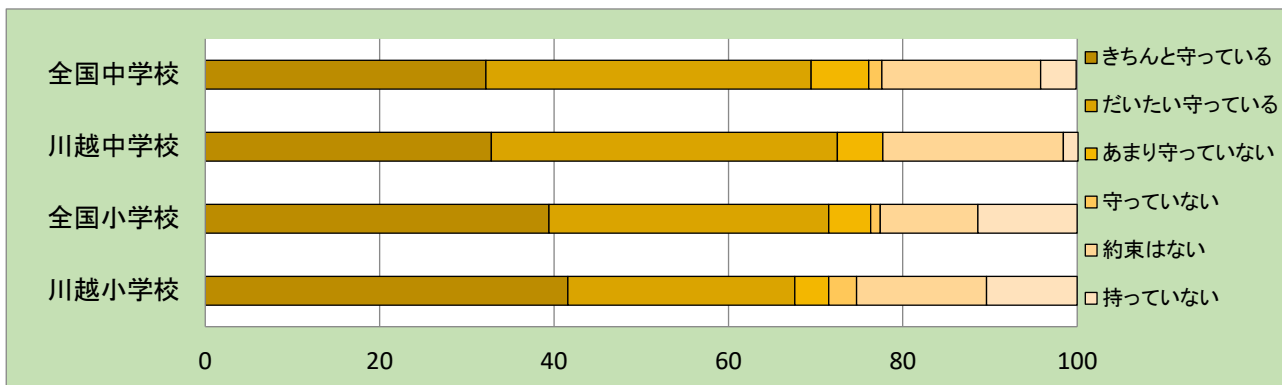
Q：将来の夢や目標を持っていますか。



⑦スマートフォンやコンピュータの使い方

*中学校は肯定回答をした生徒の割合が全国を上回っているが、小学生では下回っている。また、小学生は15%程度の子どもが約束はないと回答している。

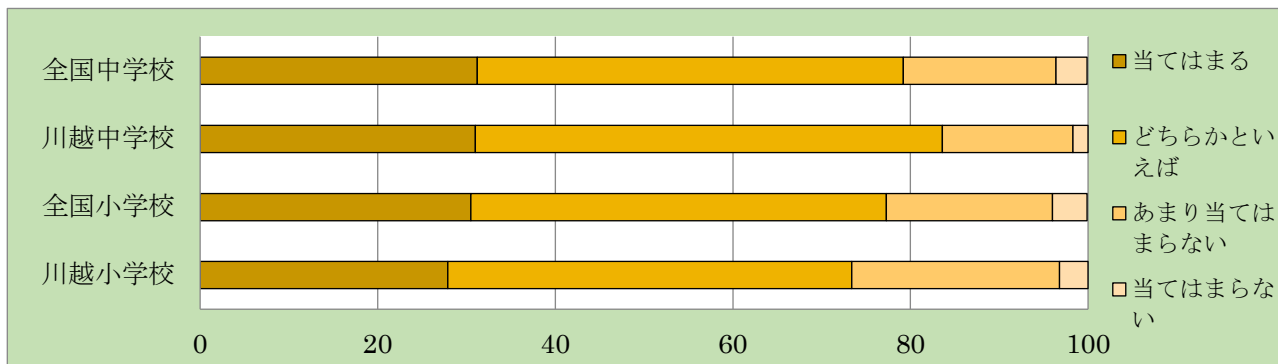
Q：携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか。



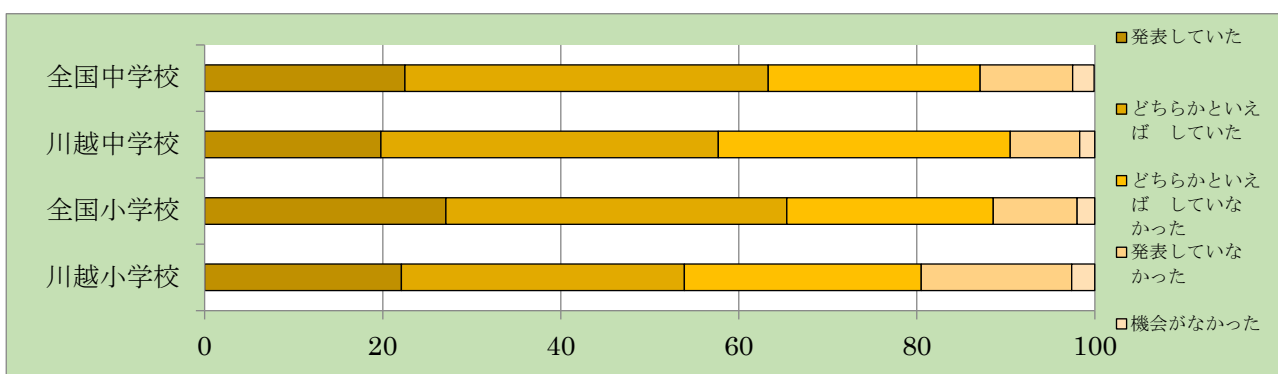
⑧主体的・対話的で深い学びについて

*** 中学校においては8割以上の子どもが主体的に学習することができていると感じ、全国を上回っている。小学校では、7割程度にとどまり、全国を下回っている。また、発表の仕方の工夫については、小中学校共に肯定回答が全国を下回った。さらに、小学校においては、話し合い活動を通して、自分の考えが深まったと思った子ども達の肯定回答も全国を下回っている。**

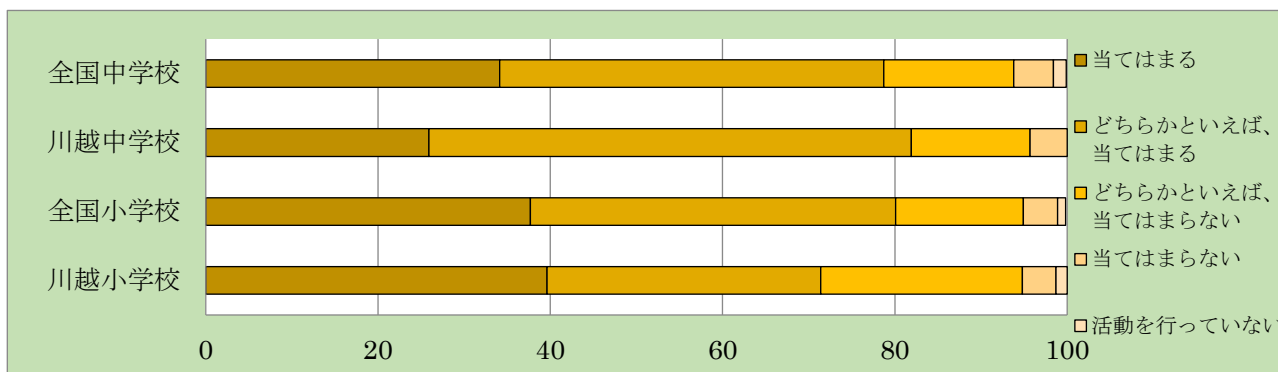
Q：今まで受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか。



Q：今までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと思いますか。



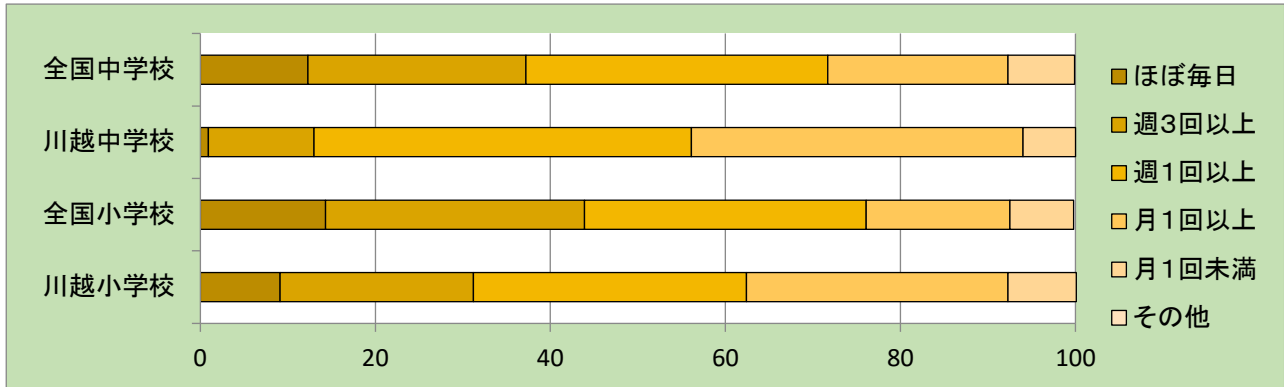
Q：児童・生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。



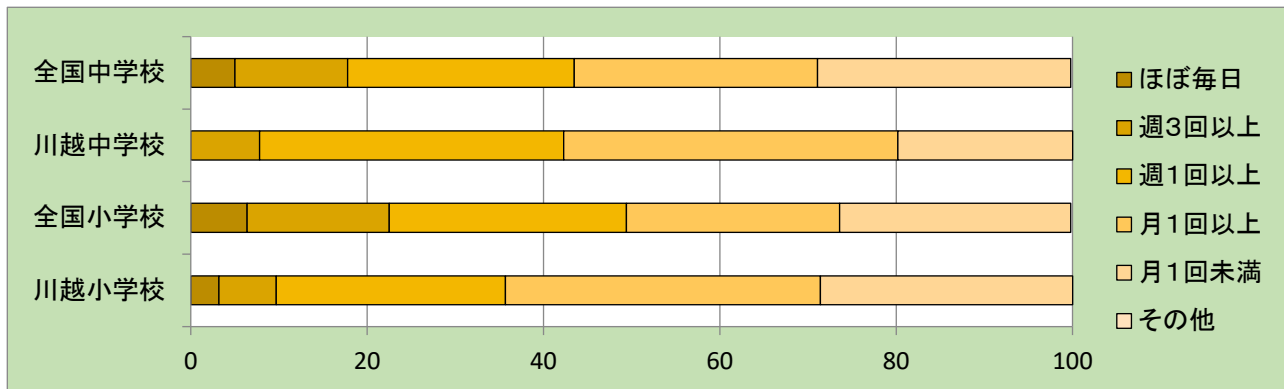
⑨ ICT機器の活用

***小中学校ともに、ICT機器の活用において、「自分で調べる場面」「友達と意見を交換する場面」「考えをまとめ、発表する場面」での活用は全国を下回っている。**

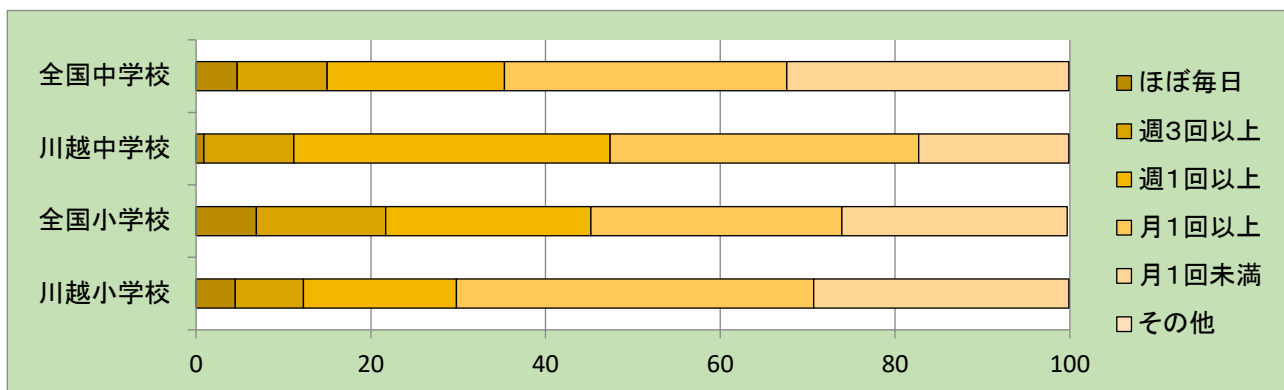
Q：授業中に自分で調べる場面でPC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか。



Q：学級の友達と意見を交換する場面でPC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか。



Q：自分の考えをまとめ、発表する場面でPC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか。



(4) 学校質問紙の結果からみえる児童生徒の姿

① 自分の考えを深め、表現する力を育成する取り組み

新たな学習指導要領に沿った教育活動が行われるようになり、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を育むとともに、主体的に学習に取り組む態度を養うことが求められています。「話し合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができていると思いますか」「話し合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」という問いに対して、すべての学校が肯定的な回答をしている。また、「授業において、児童生徒の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をしましたか」という問いに対してもすべての学校が肯定的な回答をしている。このことから、指導者が学習指導要領に示された子ども達につけるべき力を意識したうえで、ねらいを持って意図的に授業の中で話し合い活動等に取り組んでいることが分かる。しかし、一方で児童生徒質問紙にある「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」という問いに対して肯定的な回答をした児童は71.4%、生徒は81.9%となっており、小学校においては全国の値を下回っている。今後も子ども達に基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を育むために各教科等の中で、ねらいをもった話し合い活動等を進めていく必要があると考える。

② 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善

「授業では、課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか」という問いに対して、すべての学校が肯定的な回答をしている。また「習得・活用及び探求の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしましたか」という問いに対してもすべての学校で肯定的な回答をしている。このことから指導者は学習指導要領に示されている「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指して授業を行っていることが伺える。児童生徒質問紙にある「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」という問いに対して、小学生児童は74.7%、中学生生徒は86.2%が肯定的な回答をしており、子どもたち自身が、授業の中で、「何を学ぶか」が明確になっており、授業のふりかえりをとおして、次の学習の意欲につなげているのだと考えられる。今後も川越町が大切にしている「めあてとふりかえりのある授業」を実践し、子ども達が「何を学ぶのか」という学習の目的意識をはっきり持ったうえで、授業に臨み、「どのように学ぶのか」を意識させた授業改善を進めていく必要があると考えている。

また、一人一台端末が整備され、授業の中でタブレット端末を活用する場面が見られるようになってきた。主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、タブレット端末は重要なツールの一つとなっている。「教職員と児童生徒がやりとりする場面では、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか」、「児童生徒同士がやりとりする場面では、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか」という問いに対しては、全国の値と比べると低い結果となっている。また、児童生徒質問紙にある「学級の児童生徒と意見を交換する場面で、PC・タブレットなどのICT機器をどの程度使っていますか」等ICT機器の活用に関する質問に対して、全国の値を下回る結果となっている。今後も教職員のICT活用に関する研修会を行い、どのような場面で、どのように活用することがより効果的な活用になのか等研修を深めていく必要があると考えている。

③ 自己肯定感・自己有用感の育成（自尊感情）

「これまでに学校生活の中で、児童生徒一人一人のよい点や可能性を見つけ評価する（褒めるなど）取組を行いましたか」という問いに対して、全ての学校が肯定的な回答であった。一方、児童生徒質問紙において「自分には、よいところがあると思いますか」という問いに小学生は80.6%、中学生は84.5%が肯定的な回答であったが、小学校では前回から3ポイント、中学校では12ポイント上昇している。

学校教育活動において自尊感情の育成には、個々の児童生徒が学習の場面において「できた」「わかった」という満足感や充実感を持つことや、学校生活での仲間とのかかわりの中で、認められることや受け入れられることが重要な要素になると考える。しかし、学校教育活動の中だけでは自己肯定感・自己有用感の育成は行えず、家庭や地域とともに育成していくことが重要であると考えている。一人ひとりのよい点や可能性を見つけ、よいタイミングで評価や承認を行うことが自己肯定感・自己有用感の育成につながる。今後も家庭・地域・学校が一体となって子ども達を見守りながら、成長の後押しをしていきたいと考えている。

一方で児童生徒質問紙にある「将来の夢や目標を持っていますか」という問いに対して肯定回答をした中学生生徒は59.5%、小学生児童は74.6%と全国の値を下回っている。学校質問紙にある「将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしましたか」という問いに対しても、肯定的な回答は全国の値を下回っている。コロナ禍において町主催の事業や学校行事等が中止や規模縮小となり、子ども達が将来の夢や目標を持ちづらい状況になってしまっていると推察される。授業内だけにとどまらず、様々な出会いや体験を通じて将来の夢や目標を持てる子ども達を育てていきたいと考えている。

2. 学力・学習状況調査結果の「弱み」を改善するための対策



全体を通して

全教科において、教科特有の「見方・考え方」、つきたい力を明確にし、児童生徒自身が「何ができるようになるか」を明確にしながら「何を学ぶか」という学習内容だけでなく、「どのように学ぶか」という学習課程を重視した授業改善を進める。

1. 「めあてとふりかえり」（目標の提示、振り返り活動）のある授業の徹底を図り、子どもたちが一時間の授業の中で「できた・わかった」と実感が持てる学習へつなげる。
2. 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行う。
3. ICT機器の効果的な活用を探り、授業改善を行う。
4. 自分の考えや必要な情報を整理して書く力をつけるための指導を行う。
5. 一人一人の学習状況を十分とらえ、少人数による効果的な指導を行う。

国語

1. 書くことの指導の充実

- ・書く活動において、児童生徒の興味関心に応じた題材を設定し、子どもたち自らが書くようになる気持ちを高める手立てを講じ、児童生徒が主体的に取り組めるように工夫する。
- ・発達段階に応じて「字数制限やテーマなどの条件を与えて書く活動」を、授業の中に継続的に取り入れていく。（国語に限らず他教科においても「条件を与えて書く」活動を行っていく）
- ・文章を書く際には、文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えることを意識させ書く活動を行っていく。

2. 読む力を育成する指導の充実

- ・小学校低学年段階での MIM-PM の取り組みを継続して行き、「読み」に対して苦手感を感じている子どもに、早期に指導を行えるようにしていく。
- ・いろいろな文章や作品に出会わせるために、読み聞かせの機会を充実したり、選書コーナーを設置したりするなど、各校において読書活動や学校図書館での活動を工夫する。

3. 自分の考えをまとめる活動の充実

- ・授業における話し合いや毎時間のめあてに対するふりかえりの中で、自分の考えをまとめる活動を取り入れる。発達段階や内容に応じて、字数制限やキーワードを提示するなどの条件を与えて書かせるようにする。
- ・自分の考えをまとめたものを友だちと共有する活動を取り入れ、自分の考えと比較し、新たな考えを知りながら、考えを深めていく活動を取り入れる。その手立てとして ICT 機器の効果的な活用を進めていく。
- ・自らの問題解決に必要な資料や情報を選択・活用し、友だちと互いに意見を出し合って自分なりの考えをまとめる活動を取り入れる。さらに、まとめたものを発表する活動につなげていく。

算 数 ・ 数 学

1. 基礎的な力をつける時間の確保

- ・基礎となる内容の定着のために、ていねいに指導できる時間の確保と家庭学習の充実を図り、定着に向けた取り組みを進める。

2. わかる授業を目指した授業展開の工夫

- ・子どもたちの生活に沿った身近な課題を見出し、児童生徒が主体的に取り組める授業を展開していく。また、算数・数学の時間に学習したことを日常生活の中で活用できるように工夫する。
- ・言葉や数・式と、図・表・グラフなどを関連付けた授業を取り入れる。
- ・「ふりかえり」の時間を大切にするとともに、子どもたちの理解度を測る評価問題などを適切に取り入れる。
- ・個々の子どもたちの強み・弱みを把握し、少人数による学習活動を進める。

3. 自分の考え方や求め方を説明する

- ・算数・数学用語、数学的な表現を用いて「◎◎であるから、△△である。」の形式で記述させたり発表させたりする。
- ・ICT 機器を効果的に活用し、個々の児童生徒の考え方や求め方を交流したり、自分の考え方をまとめたりする。



理 科

1. 生活科から始まる「遊び」「体験」活動の充実

- ・日常生活や身近なことから、価値や疑問を見出し、自分で調べたり考えたりする活動を繰り返し行い探求意欲を高める。

2. 実体験を伴う観察・実験の充実

- ・生物や実験器具等を見たり、触れたりして本物を知る。また、観察・実験の充実を図り、教科書からだけでなく、体験を通して知識・技能を高めていく。さらに、観察・実験をするだけでなく、予想や仮説を設定し、観察・実験後に検証する。また、その結果からさらに考え合う活動を設定する。仲間の考えを聞き、自分の考えをより妥当な考えに改善するための時間を確保する。

3. 複数の情報を関連付けながら、分析・考察させる活動の充実

- ・複数の情報を比較させ、共通点や相違点を見つける場面を設定する。

3. 町教育委員会による手立て

(1) 少人数教育の充実

少人数での指導体制を継続し、国語科および算数・数学科を中心とした基礎的基本的な力の向上を目指します。

(2) きめ細やかな指導体制の充実

町非常勤講師や学習支援員及びA L Tの配置を生かした指導のあり方をさらに充実し、一人一人の子どもたちが学びやすい環境づくりを進めます。

(3) 学力向上推進委員会の開催

川越町学力向上推進委員会において、各校の学力向上に向けた取組について協議・情報交流を行い、子どもたちの学ぶ力を伸ばすための授業改善を進めます。また、川越町全体で進める学力向上策について検討します。

(4) 校内研修等への訪問指導・支援

北勢教育支援事務所および町教育委員会の指導主事、学力向上アドバイザーが各校へ訪問し、学力向上に向けた校内研修への指導・支援を進めます。また、学力の定着を図るための授業のあり方について、教職員に向けた継続的な直接指導を進めます。

(5) ICT 機器を効果的に活用した授業の推進

授業において視覚的効果を高めるために、大型提示装置を活用して教材を提示したり、子どもたち同士が意見や考え方を交流しあう場面においてタブレット端末を活用したりして、主体的・対話的な授業の実現を目指します。また、ICT 機器の研修会等の校内研修への指導・支援を進めます。

(6) 家庭学習習慣及び読書活動の推進

各家庭での TV 視聴やゲームをする時間を振り返り、各校が配付している家庭学習の手引きやシラバス（授業計画）をもとに、家庭学習の定着に向けた取組を進めていきます。また、「読書旅行」や「家庭読書の日」の取り組みを推進し、小学校低学年から本に触れ合う機会を増やし、語彙量（ごいりょう）を増やしていきます。

『豊かな心』を土台とした社会で生きていく力の育成

2022年4月に改定しました川越町教育基本方針で示した通り、川越町は【『豊かな心』を土台とした社会で生きていく力の育成】を基本方針としています。

『豊かな心』を培うために必要なこと（3つ）、

「非認知能力を高めること」

「個性を大切にすること」

「相手の個性を尊重すること」

を大切にし、教育活動を行います。

